



# 日進北小だより

令和3年6月1日 第3号 電話 048 (663) 1842 FAX 048 (663) 9884

<http://nisshinkita-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標：心身ともに健康で、自ら学び、自ら考え、判断し、行動できる子どもを育成する  
～さらに、日本一 すてきなあいさつ 日北っ子～



## 雨だって うきうきわくわくキャンペーン

校長 平塚 信也

5月26日の夕方はスーパームーンの皆既月食でした。早めに帰宅し、荒川の土手に妻と見に行きました。残念ながら雲にはばまれ全く見ることはできませんでした。次に日本でスーパームーンの皆既月食が見られるのは12年後の2033年10月だそうです。

実際に物事を見るということは我々の知識の上でとても大きな位置を占めていると思います。しかし、全てを見たり、経験したりすることはできません。そこで書物なり、映像なりの物事を自分の知識や経験として積み重ねていくことが大切になってきます。さらに読書でつちかう力に創造力があります。人は想像しなければ目に見えるものしか知りようがないし、感情や情緒といった人間としての深みもわかりません。

私は紙の本、電子書籍、オーディオブック（音声を読み上げてくれる本）を活用して読書しています。私の印象ですが頭に残る順番はやはり紙の本、電子書籍、オーディオブックの順番です。タブレットを使った教育を推進すると同時に、紙の本の重要性も忘れてはならないと考えています。今はスマートフォンやタブレットなど、すぐ結論が分かるものをみんな持ち歩く様になりました。調べてすぐわかると知識を得られたと思いがちですが、それは誤りです。知識や教養というのは、与えられたものを丸覚えすることではなく、知識を得る過程でどのくらい考えるかということです。知識を得るまでに至る議論とか意見の交換というのが一番重要な部分です。一人であれば、ページをめくりながら、活字を負いながら予想し、考え、自分のペースで思考できる読書が大切です。読書で思考の基礎をつくり、未来を描く創造力を養いたいものです。

今年度日進北小学校図書館は2冊貸し出しに挑戦しています。4月23日から5月12日までが「こども読書週間」で、今年の標語は「いっしょに よもう、いっぱい よもう」でした。週間にちなんで5月中は2冊貸し出しを行いました。先日、図書館を覗くと「雨だってうきうきわくわくキャンペーン」が予告されていました。司書の服部先生に聞くと、読書週間の2冊貸し出しが好評で、「今日も2冊借りていいんだよね」という児童が多かったので定期的に2冊貸し出しを計画していくそうです。今月は雨の日には本が2冊借りられます。貸出しを始めて1か月、現在の最高貸出数は6年生女子で21冊です。上位には6年生や5年生が多く入っています。一番人気の本は「おしり探偵」でした。他には「かいけつゾロリ」や「ふしぎ駄菓子屋銭天堂」などです。低学年は人気の本を、高学年は自分に合った本を選んでいるようです。

本を読むのが苦手という児童に話を聞くと「読み終える自信がない」と言います。読書にも失敗や成功の感覚を持っているのかと少し驚きました。つまらない本は途中でやめるか、飛ばし読みしてもよいと思います。本というものは全部が全部、貴重で面白いものではありません。だから、自分で選ぶというのはわりと大切なことです。借りても読まずに返すことがあっても構いません。何冊かに一冊いい本に巡り合えれば、すてきだと思います。もっと気楽な気持ちで楽しんで読書してほしいと思います。さあ、今年度も読書の機会はたくさんありそうです。昨年の標語は「出会えたね。とびっきりの1冊に」でした。楽しい読書習慣を持った子が一人でも多く育つよう工夫していきます。